



神付書水録

12

^13
3942
3



寺

13
3942
3



十五

杉州陽々池 秘付書水保書

目録

一 和田屋の書 初雅の書

和

系 書 後 丹 今 経 市 古 師 秘 付 書
利 行 事

二 寺 僧 安 海 寺 古 師 秘 付 書

榮 機 堂

寺 僧 安 海 寺 古 師 秘 付 書

本大學出版部

修竹の事

養助の世に庵を築き、和向の市に

接する事

一山牛の宿、是より御座る事

好縁とす

訪付雲水猿巻に

和向の世に、御座る事

和向の世に

和向の世に、御座る事

和向の世に

和向の世に、御座る事

和向の世に、御座る事

和向の世に、御座る事

ふたつとて お師の發せしめ
うぶぞお礼をとり 昔中師と
号して古首一はが廿初子の首
も別々守身衣けり 異て見たに
松平修良守及より名祖河庭々也
軍印の陳村や 有よりふ富子能
井山見於子たりふ形々 表叔を居る
多づきとれなり 勿論原よりえ

[illegible]

山崎子^{さん}と氏^しあを^{あを}あや^{あや}所^{ところ}と母^{はは}の
 子^こと母^{はは}がえ^えを^を和^わ貞^{てい}田^{でん}家^け流^{りゅう}
 の母^{はは}のま^まさん^{さん}が^が華^わと^と近^{きん}々^々
 ま^まのま^ま者^{もの}が^が人^{ひと}母^{はは}流^{りゅう}母^{はは}流^{りゅう}母^{はは}流^{りゅう}
 は^は子^ことあ^あや^や所^{ところ}接^{けつ}を^をま^まが^が秘^ひ書^{しよ}す
 母^{はは}とま^まと^と一^{いつ}に^に對^{たい}し^して^て文^{ぶん}の^の
 り^りと^とあ^あや^や所^{ところ}の^のつ^つ人^{ひと}が^がま^まが^が
 ち^ちと^とま^まの^の指^{さし}南^{なん}の^のゆ^ゆけ^けと^とま^まなり

[illegible]

うねるふやどつとて平家なれど
毎少の父ありき又も母の病
少海原とて知るなり我は也
を病とてしりすくくわくと
さききく天に神明の所居と
法中へさ小父母おしきく明
き世を傳ふせんと忽ち
泪ぞ我物家の快楽ふりて

子陽のうきあらしを知らずして
 今更又の散刺をかりひりし
 たぐふに長そなたは中良きものなりとて今
 目もたまやわすれぬ心よりなうとて佛
 りよ入る衣をはきて書をくみけり
 あらゆる心をいかにせむとて合掌のまゝ
 佛の国の夢を見せしめしめさるべし
 こころをいかにせむとて合掌のまゝ

あやまきしをてきふし切拂ひ世に仕
死のあやまき今より中へ出りしをき深
あふ又母のき深と吊りしを家
妙と片月美のき深とふしと和向
あつとせうと載と利常とてふ
とむしあしあふとふと和向と深
とくし深と深とふと和向と深
とくしあしあふとふと和向と深
とくしあしあふとふと和向と深

永井庵を深とふと和向と深
深とふと深とふと和向と深
深とふと深とふと和向と深
深とふと深とふと和向と深

あやまきしをてきふし切拂ひ世に仕
死のあやまき今より中へ出りしをき深
あふ又母のき深と吊りしを家
妙と片月美のき深とふしと和向
あつとせうと載と利常とてふ
とむしあしあふとふと和向と深
とくし深と深とふと和向と深
とくしあしあふとふと和向と深

昔のそとれ候へ
あそりやうき
 その人の涙流ちてく
こころを
 涙は心よりけしめ事ゆゑに
いふこと
 事を成すべく世別れもさ
いひかへ
 おほんせくおまづきこそねらん
けんがよ
 初なる事にて軍兵のつらさをわがた
あそりやうき
 ら、民公の事もよくあらぬなり
あそりやうき
 たうりともなう懐くをも書きたる人

乙
 毒を薬まき 医下をり 病室より
 中井海老の 移す可し 少候はれ
 こらへて 江表にあり 甘の口もあらん
 木りて 月日を遠く けがれの
 おろく 振るふ 一と 候ふても 申す
 りて 病室の 事をも ひとよ 玉葉
 おろく せぬ の毒又 相傳 指南

我^{わが}店^{みせ}人^{ひと}まうり^{うり}あひて^{あひて}飾^{かざ}る^るべし
重^{おも}多^たき^きあ^あら^らう^うと^とう^うた^たは^はる^るも^も今^{いま}
初^{はつ}め^め金^{かね}銀^{ぎん}の^の店^{みせ}を^を修^{しゆ}り^りせ^せし^し友^{とも}
さ^さひ^ひま^まの^の飾^{かざ}り^りと^とう^うた^たは^はる^るも^も推^{おし}進^{しん}す^す
だ^だー^ーあ^あら^らう^うと^とう^うた^たは^はる^るも^も連^{れん}三^{さん}
屋^や敷^{しき}に^に修^{しゆ}り^りせ^せし^し友^{とも}
あ^あら^らう^うと^とう^うた^たは^はる^るも^も連^{れん}三^{さん}
拂^{はら}ひ^ひと^とう^うた^たは^はる^るも^も連^{れん}三^{さん}

だ^だー^ーあ^あら^らう^うと^とう^うた^たは^はる^るも^も連^{れん}三^{さん}
屋^や敷^{しき}に^に修^{しゆ}り^りせ^せし^し友^{とも}
あ^あら^らう^うと^とう^うた^たは^はる^るも^も連^{れん}三^{さん}
拂^{はら}ひ^ひと^とう^うた^たは^はる^るも^も連^{れん}三^{さん}
だ^だー^ーあ^あら^らう^うと^とう^うた^たは^はる^るも^も連^{れん}三^{さん}
屋^や敷^{しき}に^に修^{しゆ}り^りせ^せし^し友^{とも}
あ^あら^らう^うと^とう^うた^たは^はる^るも^も連^{れん}三^{さん}
拂^{はら}ひ^ひと^とう^うた^たは^はる^るも^も連^{れん}三^{さん}
だ^だー^ーあ^あら^らう^うと^とう^うた^たは^はる^るも^も連^{れん}三^{さん}
屋^や敷^{しき}に^に修^{しゆ}り^りせ^せし^し友^{とも}
あ^あら^らう^うと^とう^うた^たは^はる^るも^も連^{れん}三^{さん}
拂^{はら}ひ^ひと^とう^うた^たは^はる^るも^も連^{れん}三^{さん}

[illegible]

付^うきと^あん^い ち^あきと^いま^いせ^いし^いん^い事^い
 家^い利^いの^い少^い知^いく^いこ^いの^いち^いき^いも^いま^いの^い書^いき^い
 主^い人の^い娘^いと^い付^いき^いま^いあ^いの^いい^い持^いり^い處^い
 ぶ^いも^い付^いき^いま^いせ^いし^いき^い一^い緒^いお^いて^いま^いま^いと^い
 う^いりの^いき^い一^い緒^いの^い甘^いま^いい^いめ^いに^い帰^いる^いの^い思^い
 り^いり^いの^い事^いに^い何^いの^い書^いき^いあり^い今^い日^いも^い相^い
 ま^いて^いい^いま^いの^い娘^い一^いお^い一^いつ^いそ^いと^いい^いち^い
 附^いき^い後^いも^いら^い者^いい^いち^い一^い緒^いに^いま^いま^いと^い

ぞろぞろと在りてふちを往く
 主人将て馬ぞのふちを往く
 ぞろぞろと在りてふちを往く
 ぞろぞろと在りてふちを往く
 書ふふちを往く
 活字所ふちを往く
 ぞろぞろと在りてふちを往く
 ぞろぞろと在りてふちを往く
 ぞろぞろと在りてふちを往く

[illegible]

親の御付れずらんさけをいふ事
この武士にもよくその人今朝
あけられず市を静に作と致し移る
ゆへに好ださや客のそこ所を
已はしき何れせん今日の事
めんりうれきと客と
平次郎のいふ事
妙哉又客と主人と

[illegible]

[illegible][illegible]

胸を打て 丁文やよきりしは
高細月小角をそくしや 御や
今も梅をうつりあうりしぬら
ほすし 隔をわたりし我あそ
うあふ有 金をあやめし件の
隔を隔する 龍ふ 探せし 龍
形をやうけ とういやりふあ
そも 龍あんの おしをあふし ち龍

かよ 隔金ふりあう 月金の事あふ
ちのふりし 龍も ちのふりし
こやあ 隔あつ 中つ ちのふりし
あを 隔あつ ちのふりし 金子 ちのふりし
あを 隔あつ ちのふりし 龍のち
あを 隔あつ ちのふりし 龍のち
今い ちのふりし ちのふりし ちのふりし
あを 隔あつ ちのふりし ちのふりし

[illegible]

此の通り人梅の通りをゆく人
 ちうきんをえんをうへに流のうへ
 自物うへにうへにうへにうへに
 柳のうへにうへにうへにうへに
 えんをうへにうへにうへにうへに
 ちうきんをうへにうへにうへに
 ちうきんをうへにうへにうへに
 ちうきんをうへにうへにうへに

